

土地入手の50%が「相続」

シースタイル調査 資金難が活用の妨げ

不動産関連の比較査定サイト「スマイスター」を運営するシースタイル（東京都中央区、川合大無社長）は14日、「所有する土地の入手方法と現状」についてまとめた。

住する宅地以外の土地も所有している30〜70代の全国200人を対象に調査したところ土地の入手方法の51.5%が「相続」が占めてトップだった。

2位は「資産形成のため」（30.5%）で、「将来、子ども居住用として」（15.5%）が続いた。居住用以外の「土地の利用状況」では、「空き地」（37.5%）の4割近くが利用されていない。

「借地」（35.0%）と「駐車場・駐輪場」（32.0%）の積極的な活用も3割ずついた。土地所有者の土地面積では、「300平方メートル以上」が46.5%を占め断トツ。2番目多い「100〜150平方メートル」（13.5%）を引き離している。

土地の合計は25.5%を占めた。土地所有の悩みは「悩んでいることはない」（47.5%）が半数近いものの「活用に充てる資金がない」（21.5%）や「法規制が多い」（13.5%）、「土地の形が悪い」（13.0%）、「接する道路が狭い」（11.0%）、「敷地そのものが狭い」（9.0%）の悩みも持っている。

活用資金がない根本的な問題も浮彫りとなった。